

## 令和2年度第1回相楽東部広域連合総合教育会議 会議録

1日 時 令和2年10月21日（水）午後1時30分～2時55分

2場 所 和東町体験交流センター 会議室

3出席者 広域連合長 平沼 和彦  
副広域連合長 中 淳志  
副広域連合長 堀 忠雄  
教育長 西本 吉生  
教育委員（教育長職務代理） 石橋 常男  
教育委員 村田 年宏  
教育委員 上村 恵子  
教育委員 植田 宏和

4傍聴人 なし

### 5議 事

#### (1) 開会

司 会 大西事務局長

#### (2) 広域連合長あいさつ

平沼 広域連合長

相楽東部広域連合総合教育会議設置要綱第4条に基づき、広域連合長が会議の議長として以下の議事について進行を行った。

#### (3) ウィズコロナ・ポストコロナ社会に対応した教育について

新しい生活様式に則した教育のあり方、ICTを活用した教育等について、意見交換を行った。

### <主な質疑・意見交換>

#### ○連合長

コロナによる休校措置のため、教育のばらつきが出るのではないかと危惧をしている。今後、第3波が来ることも想定され、体制を整えて対応が遅れないようにしていただきたいと思っている。

#### ○教育長

連合の小中学校は夏休み等の短縮等でやり繰りし、学習指導要領の標準時数を確保できる状況にある。

近隣においては、学校行事を軒並み中止している中で、連合の小中学校においては、学校の思いもあり、中学校の体育大会、小学校の運動会を無事にやり遂げ、児童・生徒だけでなく、教職員もやり切ったという達成感や満足感が生まれた。

修学旅行も含め、学校行事は大事であると思っており、教科学習だけでは児童・生徒のストレスも溜まるので、各種の行事は可能な限り行っていきたい。

○教育委員

新しい生活様式の中、人と人との接触、コミュニケーション能力の養成について、どのような形で行っていくのが重要である。また、そのことをICTの活用と一緒にやっていく必要があるのではないかと。

○教育長

オンラインでの授業などのICTの活用は、これから益々重要になってくるが、教室で児童・生徒が向かい合う授業も必要である。文部科学省もオンライン授業と対面指導のハイブリッド化という言葉を使っており、ここは大事にしていきたい。

○副連合長

インターネットで集められる資料と、本などの活字媒体の資料を組み合わせる勉強していくことが大切である。地域全体でコロナを出さないことを考えていかなければならない。それは学校や行政の責任だけではなく、地域全体で考えていくべき問題である。

○副連合長

コロナウイルスをまず、学校に持ち込まないということに気を付けなければならない。そのため、学校の先生方には学校に持ち込まないよう、家での生活にも十分気をつけて欲しい。ウィズコロナの時こそ、都会の密のところよりも、低密である自然とふれあうことが大事であり、相楽東部3町村の良さをアピールして地域のほこりにつながる教育をしていただきたい。

○教育委員

オンラインの良さもたくさんあるが、オンランだけでは心の教育はできない。

自然と向き合っただけの体験は、都会ではできない。田舎の良さ生かした教育を行っていく方が良い。

○副連合長

ICTはあくまでも補助手段、一つのツールであり、主役ではない。ふるさと教育を良いものにするために、これをどのように利用できるのかを考えないといけない。

○教育委員

コロナ禍の中で家にいて、授業ができるというICTの良い部分と対面授業の大事さを両立して、今後、進めていただきたい。

○教育長

三密に配慮しながら、創意工夫し、修学旅行や稲刈りを含めた色々な体験をしていくことが大切であると考えている。

#### (4) その他について

〔 議題以外のことについて、意見交換を行った。 〕

#### <主な質疑・意見交換>

○連合長

小さい時からゴミを拾うことを経験すれば、ポイ捨てもなくなる。学校外での清掃活動を小中学校で行った方が良いのではないかと。地域で清掃活動を行っているところもあるので、その時に参加していただく方法もある。

○教育長

連合内では、清掃活動を行っている小中学校もある。地域の活動に参加するということであれば、地域学校協働本部が出来ているので、そこで行うのも一つの方法であることから、今後検討する。